



## 4年ぶり開催 川島地区体育祭 地区の親睦と健康で明るい地域づくりを目指して

爽やかな秋空が広がった10月22日、川島小学校で4年ぶりに川島地区体育祭が開催されました。この体育祭は、昭和61年から始まり今回で33回目。今では主要な地区行事の一つとなっています。体育祭の取組みや思いについて、川島地区体育祭実行委員会の海老根英雄委員長と添野正人副委員長にお話を伺いました。

### 会議が他団体との交流の場に

「体育祭は実行委員会の組織作りから始まります。実行委員は、各団体の正副会長や校長先生ほかで構成し、賞品係などの補助委員を含めると約170人になります」と添野さん。体育祭に向けて開催する会議は、普段会わない人同士が一同に集まり、顔を合わせて話しあう親睦の場とな



なかきや ひろし  
中木屋 宏 さん(下川島)

体育祭は、法人や団体、個人からの支えで成り立っていることを再確認できました。



左から添野副委員長、海老根委員長

るそうです。「この地域性なのか、地域の人が体育祭に対して一生懸命活動してくれていると感じます。ありがたいと思うとともに、そのような動きの中で地域の連帯感を高めていければと思います」と、海老根さんは関係者への感謝と体育祭開催への期待を話しました。

また、いくら準備を万全にしても、開催できるかは天気次第。それに対し添野さんは「準備は体育祭直前まで行うので、行程の進め方や経験したことは財産として残り、次に活かすことができ、けっして無駄にはなりません」と、開催への過程も大切に意義があると教えてくれました。

### 地域の垣根を超えて 盛り上がる1日に

迎えた体育祭当日は天気にも恵まれ、園児から80代まで約450人が集まり、玉入れや団体競技など12種目が行われました。パン食い競争はすぐに定員数に達する人気振りで、子どもと大人がチームとなって競う地区対抗綱引きでは、地域名が書かれた大きな旗を振るなど、応援も一層熱が入っていました。「みなさんがにこにこしていると今までの苦労が報われる」と添野さん。その言葉に込めるように、参加者は、親子で参加できてうれしい、近所の人と話すきっかけになったと笑顔で話してくれました。体育祭は家族の絆や地域の親睦を深めながら、盛況のうち

### 継続できる地区行事の 在り方を探して

開催後には実行委員による反省会が開かれ、開催案内の早期化や、シ



ニアが参加できる競技も必要といった提案がありました。「地域連携のため体育祭のような行事が必要という一方で、参加者が増える種目編成や、関係者の負担を減らす仕組み作りも大切です。まずは反省会などで出た課題の対応を進めていきます」と海老根さんは話します。

### 取材を終えて

近年地域のつながりが希薄になってきていますが、体育祭のような行事が、普段会えない人や近所の人の顔合わせの場となり、交流のきっかけにもなると感じました。

さまざまな課題の解決を図りながら、令和6年度の体育祭開催に向け川島地区は動き始めたようです。

